

第7回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成19年5月14日（月）

午後2時～午後3時

場所：みなとふれあい館

事務局：ただいまから、第7回新湊みなとまちづくり戦略会議を開催いたします。

事務局：～アドバイザーの紹介～

事務局：それでは、新しく就任されました伏木富山港湾事務所長様から一言ごあいさつをいただきたいと思ひます。

伏木富山港湾事務所長：4月に異動してまいりました。北陸のほうは初めてでございます、来てみて、富山県内は非常に歴史のある住みやすい場所だといふふうに思っております。我々が整備している橋梁を後で見させていただきますが、新しく整備することによって観光的な機能を有していると思ひています。そういった中で、今回、新湊みなとまちづくり戦略会議の中で、海王丸パークを中心とした集客を、どのように市内に持っていくかということが非常に重要なテーマだと思ひしておりますので、皆さんの活発な議論を期待しています。その中で支援ができることがあればしていきたいと思ひしておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局：～出席委員の紹介～

事務局：この度、新湊商工会議所女性会の会長が交代され、この会議から新会長様に出席いただいておりますので、一言ごあいさつをいただきたいと思ひます。

委員：この度、委員に就任いたしました。よろしくお願ひします。

事務局：それでは、事務局を代表いたしまして、産業経済部長がごあいさつを申し上げます。

産業経済部長 : 皆さん、今日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。国のほうから所長さん、また、県のほうから主幹さんに出席いただき、ありがとうございます。また、女性会会長には、今回の会議から委員に就任いただき、よろしく申し上げます。ご存知のとおり、この戦略会議は3年目に入りました。お手元のほうに委嘱状をお配りしてありますが、今後とも引き続き、みなとまちづくり方策の実現にご尽力賜りますよう、よろしく申し上げます。ご承知のとおり、去る4月に、国土交通省のみなとオアシスに海王丸パークが認定・登録をしていただきました。これを契機に、新たに、所長さんからもお話がありましたように、海王丸パークを中心としたみなとまちづくりのために、精一杯努力していきたいと、決意も新たにしておりますので、引き続き、皆様方のご支援・ご協力をよろしく願いいたします。本日は、過去の経緯から、サインの設置等に、皆様のご意見をお聞きしながら、一步一步着実にまちづくり方策を進めていきたいと考えています。誠に忙しい皆様方から、引き続きのご協力をお願いしております。誠に申し訳ございませんが、今後とも、よろしく願いいたします。なお、産業経済部に4月から次長を迎えました。次長から一言あいさつをさせます。

産業経済部次長 : 今ほど紹介いただきました。どうぞよろしくお願いいたします。この新湊みなとまちづくり方策ですが、平成16年度に策定しましたが、当時は委員長の下で事務局の一員として参加しておりました。そういった意味で今回このように関わりが持てるということは、大変ありがたいことだと思っています。そういうこともありまして、ぜひとも、この方策を早く実行できるように、事務局の一員としていろいろがんばっていきたくて思っておりますので、皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 : それでは、さっそく議事に移りたいと思います。委員長、よろしくお願い申し上げます。

委員長 : よろしく申し上げます。第7回の会議です。新しいメンバーで交替もあったわけですが、基本的に莫大な投下をされた港を中心とした資産を、ここに住んでいる人たち、働いている人たちにとってすばらしいものにしていく、利用していくという観点、そして、にぎわいを十分なものにしていく、そういう意味で戦略会議という名前でスタートしておりますので、忌憚のないご意見をどんどん出していただきたい。これで出された意見は、ここで必ず議題に順次していきますし、いろいろな形で少しずつ実現しているように私は思い

ますので、ここだけの会議ではなくて、毎日が戦略会議というように自分の心の中でやって、次の会議にはこういった発言をしようということ貯めていただきたいと思います。早速入りたいと思います。今日は、ここでの会議を3時で終わりにしたいと思います。3時から、大橋中心の見学がありまして、やはり現場を見ていただいて、このまちづくりのところで意見を出していただかないと本物にはならないということで、そういう予定になっております。最初の一時間のほうなんです、最初に、大変うれしいことに、ここでの会議でも発言があったし、それから、来ていただいている国や県のお力添えで、今、そういう予算がついたということで、この会議ででたものを実現していく問題があります。それについて、はじめに事務局のほうから説明をいただきます。その後、この件の具体的な関係で、ワーキンググループを作ることが、この前の会議で決まっておりますので、その進め方をお話します。意見があれば、やはり、ここが母体なものですから、こんな点に注意してやったらどうかと、そういうことを意見交換します。最後に、いろいろな報告が事務局からあります。それから、次回の会議への宿題も、その時申し上げたいと思います。それでは、最初に事務局の都市計画課のほうから、都市再生整備計画の内容をお話願います。

都市計画課長： 都市計画課長です。それでは、資料1に基づき、ご説明をさせていただきます。なお、表題にありますとおり、都市再生整備計画の変更ということで、この会議の中で一度ご説明させていただいており、重複する点があるかとは思いますが、新しい委員の方もいらっしゃいますので、順次ご説明させていただきます。この計画は、まちづくり交付金という形で国の交付金をいただいて、実施しております。今は、新湊地区と小杉地区の2箇所での事業を展開しておりますが、その内の新湊地区ということで、平成17年度から4ヵ年の計画で進めており、今回、19、20の2ヵ年について、変更をしてみたい。総事業費が9億5800万円に変更し、国の補助は40パーセントであります。この計画の目標は、内川の景観を生かした潤いのある魅力的な空間による、市民・観光客の交流拠点の創造で、それを達成するための指標として、海王丸パークへの入込者数を80万人から85万人、イベント開催における入込客数を20万5000人から、24万人と目標を設置し整備を進めていこうとするものです。資料の表中、黄色で示した部分に変更箇所がございます。先に、表中の4番目と5番目の茂八橋と桜橋ですが、内川で庄川に近い部分の2つの橋については、後に回させていただきたいということで、進めております。黄色の部分新しく変更してきたところでして、さんがの湯前の歩

道ですが、ここが唯一内川の回遊性を遮断しており、回遊性が確保されるようにこの場所をやりたいということです。それから、ポケットパークで立町と書いておりますが、これは、南立町の曳山格納庫のところポケットパークをやりたい、それと併せて、この辺で駐車場を3箇所整備したいと考えています。そして、案内表示板、これは△になっておりますが、当初は海王丸パークに電光掲示板で旧市街地へ誘導しようということであったのですが、それを設定しようとしていた建物が頓挫しており、それと、砺波市でされた電光掲示板がお金のわりに維持管理が大変だということで、これをむしろ海王丸パークから旧市街地へ歩いていくための案内表示板にしたらどうかということで、これからこの場で協議をしていただくことにしております。そういう意味で△になっております。それから、川の駅を内川で造る計画を進めておりますが、この中に曳山展示場を含めて造っていきたいと考えております。それで、これは基幹事業ということで補助事業の中での性格わけです。提案事業としては、曳山展示館補助金については、現在2箇所の曳山格納庫の建設が予定されており、これに市からの補助金だけではなくて、国の補助も加えてできないだろうかということで、取組んでおります。それから、曳山まつりの時の棧敷席を設置したらどうかというご提案もございまして、社会実験としてやってみたい、その補助です。それから、イベント開催ということで、これは海王丸パークの入込者数を増やしたい、海王丸パークに人を呼びたいということで、6月10日にやられる獅子舞大競演会への補助金です。それから、西新町地内に波返しがございまして、そこを何か飾り付けをできないものかということ、それと、山王町の公園がございまして、前から公衆トイレの要望もございました。姫野病院の隣になりますが、ここにトイレを設置したい。それから、観光交流センターについてですが、こちらは川の駅と関連して、今ご意見を伺っているところですが、この場でも意見交換ができればと思っておりますが、観光交流センターという形で、川の駅の中に位置づけしていきたいと思っております。また、北前船資料館ということで、廻船問屋をやっておいでた方が亡くなられて、そのお宅をぜひ市に寄付をしていただきたいということで、今お話をしているところでもあります。それが話がまとまれば、若干、家の前が変わっているの、それを復元して、北前船資料館として整備したいと考えています。資料の裏面は、地図になっております。以上です。

委員長 : どうもありがとうございました。この会議の意見交換で出た意見がかなりというかほとんど入っているという感じがしたんです。何か今のご説明で質問なり、意見がありましたら、出してください。ここでも、駐車場の問

題も何回も出ておりましたし、トイレの問題、それから、内川沿いの民家の問題、次々と出ていました。

委員 : 一つよろしいでしょうか。資料中の△はどのような意味なのでしょう
か。

都市計画課長 : 当初、案内板というのは電光掲示板で予定をしており、今
度皆さんに作っていただくのに変更になったということです。そういう意味で
す。

委員長 : 前に北日本新聞に載っていたんですけども、内川沿いのところ
で何かをやったらいいとか、提案とか記事を見たことがあるんですが、もしや
るとすれば、この資料館ということになるのでしょうか。

都市計画課長 : 可能性とすれば、資料館でやろうかと思います。ただ、ご
本人さんのお話を若干ご紹介だけさせていただきますと、四十物町地内がピッ
タリという感じですが、せめて内川沿いで100メートルから200メートル
くらい歩けるところがほしい。そこには、寿司屋があったり、飲み屋があつた
りして、その中に古民家があつて、落語ができるような演芸場があればいいと
いうのが、具体的なご提案なのですが、ただ、実際問題として、四十物町に空
き家がないものですから、北前船の資料館がもしできるのであれば、そうい
うところでお茶会をやったり、落語会をやったりできればと思っております。今、
ここの計画には載せなかったのですが、土蔵を見せた街路というものも考えて
もいいのではないかというご提案もいただいております、今後ご相談させて
いただければと思っております。

委員 : 土蔵みたいなものがいくつかあつて、そこで喫茶店でもあつて、ち
よっと休憩できるような施設を作ってもいいのかなと思えますけど。昔のたた
ずまいの中で、近代的にしないで、昔のままを利用して、そこでゆっくりお茶
を飲むということなんかとてもいいと思います。

委員長 : 岩瀬なんかが非常に参考になるような気がするんですね。森家な
んかは、そこを使いながらコンサートだとか、場合によっては落語もできるで
しょうけど、そのかわり、座席はしっかり作らないで、折りたたみ椅子を持っ
てきて、常設にはしない。賑わいが出てきたら、そうしたお茶を出すというも

のなんかもいい。この計画が完成してきたら、海王丸パークから、内川沿いに歩いて、休憩をしながらのルートが見えてくる。

委員 : そうなったら、うれしい。

都市計画課長 : 先ほど申し上げましたが、川の駅の施設をどうして行くかということで、いろいろな団体に意見を聞いております。できれば、皆様方にも郵送でご意見をいただけるようにしたいと思いますので、よろしく願います。ぜひ、内川を散策した後に休憩できる軽食喫茶みたいなもの、そして最近、内川で絵を描いている方々が非常に多いので、そういった小さいアトリエみたいなものも、それから、観光交流センターということで、観光ボランティアの皆さんに案内してもらうような仕組みもできないか検討しています。

委員 : 立町のポケットパークですが、今、新湊では曳山の格納庫を各町でつくられているわけですが、これがポケットパークなのですか。展示施設も考えていらっしゃるのでしょうか。

都市計画課長 : 13本一緒にということでの曳山会館というものは検討されてまいりました。多く集めたものよりも、点在させてそれを周ってもらったほうがまづくりとしてもいいのではないかという方向で考えております。そうすることで、南立町の曳山蔵が建てられたところです。今、川の駅の中にできれば2本入れさせていただけないかということをお曳山協議会にお願いする予定です。できれば、立町公園の空間も場合によっては使うことを考えてもいいのではないかと、各町の曳山蔵が順次建設されていけば大変すばらしいものになるかと考えています。既に、北長徳寺など総帆展帆の時には曳山を見せていただいております。曳山展示の件については今はこのようなところです。

委員長 : どうもありがとうございました。

都市計画課長 : 今の補足になります。新湊地域審議会では、八幡宮の境内の土地を利用して、曳山会館をつくったらどうかという提言が、一つは修復をするという目的で、なかなか地元を離れて曳山を展示することには抵抗があると思うので、八幡宮で修復するという形で地域審議会から提案をいただいております。

委員長 : どうもありがとうございました。内川沿いでの整備の動きに伴って、商工会議所或いは商店街のほうでご意見はありますか。

委員 : 前回も言いましたが、内川周辺に関しては、結構進んでいると思います。やはり、この戦略会議の狙いは、もともと海王町と海竜町の土地の有効活用ということで、そのような構想だと思っています。内川も進んでいますが、大橋がやがてできますので、商工会議所としてもやはりあせるわけです。あの空いた土地に誘致を進めたり、努力をする必要があると思いますが、どうすればいいのかという案は持ち合わせていません。風呂がほしいとか物販施設がほしいとか、いろいろな話がありますが、では誰がやるのかということで話が終わってしまう。ともあれ、橋ができてたくさんの人がある、でも何もないということで、素通りして行かれては困るということで、商工会議所の立場としては非常に困る。

委員 : 内川のほうは、どういった整備を進めようとしているのか。

委員長 : 今まで、そのような話は何度も出ています。内川兩岸のまち並みをどうするかということ、これは住んでいるところでもあるし、個人の財産でもあるし、ということで、入れる部分と入れない部分があって、入れる部分は次々と手を打っているとは思いますが、そういうことで、まちづくりとしては、あるがままのすばらしい姿を見ていただいて、人の流れをそこへどうやって持っていこうかと、橋の問題やポケットパークの問題、内川を水面から見て通りとして賑わいを持っていこうかという段階での整備という意見がありました。

委員 : そうすると、そういうのは統一された形であるのがいいのではないのでしょうか。古川なんかは、そういった統一感がありますね。

委員長 : 次回の会議では、この前も委員から出た意見なのですが、せめて色の問題や景観の問題を一度やろうということにしています。その時また。そういう話題は出ておりますし、現在進行形であります。

それでは、次に移りたいと思います。時間があれば、また意見交換をしたいと思います。とりあえず、やらなければいけないことは、このまちづくり交付金との関係で、ここで決めた事で、どのように事務局で進めていくのかということとを報告して、大きな角度からご意見があれば出していただくということをし

たいと思います。それは、この地域生活基盤の案内板の作製、そしてそれをどこに置くかということを実体的に取り掛かるということです。取り掛かるのは、誰かが業者に頼めばすぐにすむということではなくて、そういう方法は戦略会議ではとらなくて、とにかく多くの人を入れて意見交換しながら、何かいいものをつくっていきましょうということです。そういった考えを浸透させていくということで、ワーキンググループもいろいろなところから委員を募ってやろうということに、この前になりました。それで、ワーキング部会の進め方について、事務局から説明をいただいて、皆さんから意見をいただきたいと思います。

事務局： それでは、資料2の新湊みなとまちづくり戦略会議ワーキング部会の進め方についてご説明いたします。先ほどもお話しがりましたが、このみなとまちづくり方策は、海王町・海竜町の未利用地の利用、そして内川を中心とした中心市街地と臨海部との連携によって地域の活性化を目指そうというのが中身かと思えます。それで、今回計画しているのは、中心市街地と臨海部の連携というところの、海王丸パークに年間約80万人の観光客が訪れておりますが、はたして、その何割が中心市街地に寄っていかれるのかといえば、ほんの数割かと思うんです。海王丸パークにいらっしゃるお客様を、徒歩や万葉線を利用して中心市街地へ引っ張る案内板の整備をしようというのが、この資料2の説明の趣旨になります。それで、引き続き、この戦略会議の中でお話しされていたことで、ようやく日が決まりましたので、そういうところを中心に話していきたいと思えます。まず、ワーキング部会を来月の17日の日曜日、午前9時から午後4時まで、海王丸パークにある日本海交流センター及び現地視察をとおして行っていきたいと考えております。組織についてですが、今、約15名の委員が挙がっております。二分して1チーム7～8名のチームを2チームを編成していきたいと考えております。各チームにはリーダー1名・サブリーダー1名を置いて、チームの分け方なんですけど、今からお示するのはあくまでも案でございます。事務局の案ということで、これでよろしければ、このような進め方にしますが、他にご意見があれば、おっしゃってください。私ども事務局が考えた案は、内川を中心とした観光資源へ案内板を引っ張るチームと、商店街へ案内板を引っ張るチームに分けて進めていこうということで、ご提案させていただきたいと思えます。観光資源誘導チームでございますが、こちらは観光ボランティア連絡協議会に依頼して、委員を2名推薦していただきました。そうした観光ボランティアを中心にチームを編成していきたいと考えております。やり方ですが、海王丸パークから観光資源へ誘導する案内板の設置箇所を調査します。まず、徒歩の場合、そして、万葉線で行く場

合、そして海王丸パークへ戻る帰路も同様に調査をします。次に、商店街のチームは、商店連合会会長から2名ご推薦をいただきました。この2名の方々に取りまとめ役になっていただいて、海王丸パークから商店街へ誘導する案内板の整備に関する設置箇所を調査しようとするものです。それも、観光資源と同様で、徒歩・万葉線・帰路も同様に調査します。さきほど、海王丸パークには新鮮な魚を売っているところはないというお話もありましたが、こういった徒歩や万葉線を利用して、中心市街地のそういった店に引き込んでいくということを考えております。やり方なんですけど、設置箇所について2チームで重なるところもあるかと思えます。それは、後ほど調整するということにして、注意事項として、一つ目が、いくら案内板を引っ張っても、全体図を見なければ分からない部分が相当あると思うんです。それで、地区全体図を置く場所も検討していただくことにしたいと思えます。例えば、万葉線の駅舎であるとか、主要な交差点ですとか、そういったところなんです。次に、観光資源といいましてもたくさんありますが、今回は内川とそれに架かる橋へ誘導したいと考えております。続きまして、徒歩で行く人はいない、車でしかいかないということではなくて、その案内板によって、1人でも多く徒歩で行きたいと思えるような案内板の設置調査ですので、その目的を間違わないような進め方をしていきたいと考えております。続きまして、万葉線の駅なんですけど、今回は、東新湊、中新湊、新町口、射水市役所新湊庁舎前駅の4箇所を案内板の整備に関する調査の基点としたいと思っております。先ほども、少し出ましたが、車両誘導に関する調査は、今回の調査から除外したいと思えます。今後のスケジュールですが、第1回ワーキング部会を、先ほどご説明しましたとおり6月17日に行いたいと思えます。予備日として7月1日を取っております。一度で終わるのは少し難しいと思えますので、7月1日にもう一度集まって、取りまとめを行っていききたいと考えております。それで、どういった方法で調査をするかといいますと、皆さんの資料の中に地図が付いているかと思えます。大きな地図を用意しますので、その地図の中に点で落として、横に番号を書き、それに対応して調査票を作成してもらい、順に進めていただきたいと思います。最終的に、各チームで報告していただくということになります。先ほどもいいましたが、このチームわけ等は、あくまでも案でございますので、他に私どもは、徒歩の場合と万葉線の場合に分けて案内板の設置箇所を調査する方法も考えたわけなんですけど、今回、委員の皆さんへは観光資源と商店街へそれぞれ誘導するチームに分けた案でご提案させていただきました。

委員長 : どうもありがとうございました。これも、最初はお金が全くなか

ったら、手作りでやろうかといったことなんですが、こういう具合に裏づけができることになって、より内容のいいものにしたいと思います。案内板は、役所が作って置くというどうしようもないものではなくて、納得できる案内板を設置するという意気込みでやるということです。それで、この前の会議でも出たように、この戦略会議からも委員が入っていただいて、ここで出た意見とのすり合わせという役割も持っていただいて、議論のあったことはこういったことだということをつかる状態にして、入っております。今、事務局のほうで示された20名の委員を、こんなように二つに分けて、リーダー・サブリーダーを決めて、とりあえず進んでみようかという提示をしました。何かご意見はございますか。

委員：これは、海王丸パークから市街地へということですね。逆に市街地へ来られた方を海王丸パークへ誘導することはしないのですか。

事務局：海王丸パークへの帰路も同時に調査したいと考えています。そういうことで、海王丸パークへの誘導という面も含んでいるのかなと思っております。

都市計画課長：先日、内川周辺の自治会長さんとお話する機会がございました。その時、茂八橋の話もしたわけですが、その中で、庄川口から内川へ入られる方も結構おいでとのことで、また、万葉線の協議会から出ていた広報誌には、庄川口からおりられて、白山社へ行くコースが載っていた。私どもとしては、湊橋のほうまでのエリアで集中させてほしいということで、西のエリアについても意識はしているが、西側の整備が進む中で、庄川口からのことも考えていきたいということでお話ししておりましたが、庄川口についてもこの場で考えていただければと思う。

委員：漁民義人塚をわざわざ見に来る人もおりますし、この間も、どこからいらっしゃいましたかと尋ねると、金沢から来たという方もおいでた。少しは知られているのかなと思いました。

委員長：そしたら、庄川口からの方も、やっぱり念頭においてけんとうしなければいけないということですか。海王丸を出発点にして、内川ということですが。

委員 : 内川は、湊橋で海へ出るので、まだ西側があるのに、人がそこからは進んでこないんです。あそこで、帰ってしまうんですね。ですから、西宮神社のところから上がってこないと、西側のまちの中までは入って来ませんし、長徳寺の曳山は、海王丸パークの総帆展帆の時は公開していて、皆さん見に来てもらっていますし、そういうこともあります。

委員長 : 動きの線がどうしても矛盾するということであれば、当初から進めているプランというものは、海王丸、内川、それと旧市街地というおきなプランがありますので、この方策は、庄川口がメインでつくったものではないんですね。ですから、ぶつからない限り、そういう導線というのは、入れるに越したことはないと思うんですね。そしたら、検討というか、線を描いてみないと分からないということもあると思うんですが。庄川口の意見が出ましたが、当然いろいろなものを排除しながら、このチームが線を描いていくということになるかと思います。一つの意見ですね、西の方がすっかり隅に言っていたんですね。委員も、いろいろな地図を描いている人が入っているから、十分頭の中に入っていると思うんです。

委員 : 資料の話ですが、徒歩で行くということなんですが、以前ですね。方策の中に確か自転車をレンタルして行くというものもあったと思うんですね。例えば、庄川口までを考えると、海王丸パークから往復すると、5から6キロはあるかもしれません。ちょっと、歩くのではきついのではないかと。ですから、当然徒歩も大事ですが、自転車とういことも考えていただいて、自転車での動線も調査したほうがいいのではないかと。私ですと、庄川口まで徒歩は、なかなかきつい。特に夏場はきついので、自転車の利用も考えるべきではないかと思うんですが。せっかく、ワーキンググループを作って集まるのですから、そういう調査も必要かと思います。

事務局 : 今考えているのは、海王丸パークから中心市街地への案内板ですので、案内板の内容は、観光地まで〇〇メートルというような表記になると思います。ですので、徒歩で何分という書き方はしませんので、今考えている内容で自転車の動線も兼ねることができると考えています。徒歩の案内板を整備しておけば、自転車の方にも利用していただけたらと思います。

委員 : そうすると、一つは徒歩で何分、自転車で何分という併記も考えていらっしゃるということですね。

事務局 : 徒歩〇分という表記で、自転車だったら何分ぐらいで到着するなという考え方で、自転車の表記まで必要かと考えていますので、この場で必要か検討していただければと思います。

事務局 : 都市計画課長からのお話ですが、あくまで海王丸パークから万葉線で庄川口という考え方かと思います。その庄川口まで電車に乗って行って、先ほどおっしゃった漁民義人塚などへ行くということで、今の調査の対象として、この4つに追加して5つということで進めるかどうかということを検討していただければと思います。

委員 : 内川の西のほうは、新湊庁舎駅と庄川口の丁度中間ぐらいにあるので、庄川口より新湊庁舎前駅からのほうが近いと思います。

委員長 : そろそろ3時に近くなりますので、今出た意見ですが、チームの編成については意見がなかったもので、とりあえずこれでやってみようということで、いかがでしょうか。それと、基点については、ワーキンググループで意見が交わされるでしょうが、海王丸パーク、万葉線、商店街そして内川ということで、徒歩ということを中心に考えるのですが、その中で庄川口というものにも配慮する、それから、自転車にも配慮する、そうした大きな枠組みになるかと思うのですが。このようにまとめさせていただきたいと思うのですが、よろしいですか。ぜひ、この委員会からワーキング部会に参加される方はよろしく願います。その他の委員も見学が可能ですから、よろしく願います。

事務局 : これですらよろしいということであれば、これから観光ボランティアと商店連合会にお話してお願いしていきたいと思います。

委員長 : これから見学に出ますが、次回の会議につながるようお願いいたします。また、次回までの宿題として、先ほども出ましたが、次回以降になります。ぜひ、大橋に登ったらですね、この地区が違ってたように見れると思いますので、まちづくりでこの橋を使わなくてはと思っているので、まちづくりに意見をだしてもらいたいと思っています。もう一つは、景観の問題です。この辺りの景観のことを議論して、意見交換していきたい、とりあえず考えられることは、この二つです。これからの見学は戦略的な目でお願います。

事務局：この4月から、戦略会議の事務局は、港湾商工課みなとまちづくり班に変更になりましたので、要綱を添付してございますので、ご確認ください。また、射水市移住交流促進事業のパンフレットを配布してございますので、担当の観光・ブランド課長から説明があります。

観光・ブランド課長：観光・ブランド課長でございます。チラシをご覧ください。先ほどから、海王町・海竜町の土地利用についてご議論いただいているところですが、内川周辺で今年度から目新しい事業を市として始めたものから、PRをさせていただきたいと思っております。事業名としては、射水市移住交流促進事業です。これにつきましては、団塊世代の大量退職というものが、昨今のテレビで放映されているところですが、その方々に、Uターンなのか、Jターンなのか、Iターンなのか分かりませんが、射水市を体験していただいて、できれば射水市に住んでいただき、移住人口なり、交流人口なりを増やして、まちを活性化しようということです。先週の木曜日、5月10日にスタートしました。3つの間取り図がチラシに書いてありますが、空き家、古民家とありますが、中古住宅でございます。3軒の空き家を用意しまして、そこに住んでみませんかということでスタートしたところでもあります。一泊1人1000円でお泊りいただくということで、東京なり、都会のほうから久しぶりに古里で1週間なり住んでみたいなということで利用があれば幸いです。3つの住宅にネーミングをしまして、「放生津」と「山王」につきましては、放生津八幡宮の前の通りでございます。曳山まつりのときは、絶好の場所でございます。「あずま」につきましては、内川に面しております。漁船なり遊覧船が通っていく風景が2階の窓からご覧いただけ、内川の景色をビールでも飲みながら見ていると、ゆったりとした癒しの雰囲気があるかなと思っております。実際の事業主体は「NPO法人水辺のまち新湊」でございます。市は支援をするという格好で行っております。今始めたばかりで、泊まれたという実績はまだないのですが、多数問合せがあるということもNPOから聞いております。委員の方々におかれましても、この事業をPRしていただければ幸いです。少しは関連のある事業かなということでご説明させていただきました。

委員長：この事業も念頭において意見を整理してください。これで、第7回の会議を終わらせていただきます。